宮銀陸上部の元主将

黒木さん九保大で鍼灸師目指す

延岡星雲の外部コーチも

練習で選手に声を掛ける黒木さん＝2日、西階陸上競技場

宮崎銀行女子陸上部の元選手で主将も務めた黒木裕子さん（23）は今春、鍼灸（しんきゅう）師を目指して九州保健福祉大社会福祉学部スポーツ健康福祉学科に入学。6月からは、延岡星雲高陸上部の外部コーチに就いた。「自信はなかったが、経験を生かせる場。未経験の種目も勉強しながら、選手と一緒に成長できたら」と、競技への恩返しを誓う。

黒木さんは宮崎市出身。生目中で陸上をはじめ、女子3000㍍の県中学記録保持者。宮崎日大高では3年連続、都大路（全国高校駅伝）を走った。

宮崎銀行では5年間、クイーンズ（全国実業団女子）駅伝の予選、プリンセス駅伝に出場するなど主力として活躍。選手として上を目指す一方で、「体の反応や治りが早く、自分に合っていた」。アスリートとして、体のケアに関心を持ち、引退後は鍼灸師へ。県内で資格取得を目指せる九保大への進学を選手時代から志していたという。

昨年11月に現役を引退し、今春から大学に入学。「アスリートというよりは、女性の目線で手助けができる鍼灸師を目指して」、18歳の学生と机を並べる毎日を送っている。

当初、陸上とは関わりのない学生生活を予定していたというが、「在籍だけでも」と誘いを受けて、大学の陸上部へ。その流れから、中高生の大会を競技役員として手伝い、「長距離一本」で走ってきた自身の競技人生とは別の陸上の魅力にも関心が出てきた。

競技専門の教員がいない延岡星雲高の外部コーチの依頼も部のつながりから。最初は引き受けるか悩んだというが、今は毎日の練習メニューを作成し、週末などに週1回は練習に顔を出している。

「長距離以外の種目は、とても難しいが、これまでの仲間や先生たちからアドバイスをもらい、勉強させてもらっている。一緒に成長したい」

教員の働き方改革などに伴い、国は部活動の「地域移行」を模索している。外部指導者制度はその一環だが、特に地方では人材確保が大きな課題となりそう。アスリートのセカンドキャリアとして、学生として資格取得を目指しながら、専門分野で地域に貢献する。一つのモデルケースになりそうだ。